



上野焼開窯420年 記念式典

深めた価値と友好

豊前小倉藩主・細川忠興公が招いた李朝陶工・尊階によって1602年に開かれた「上野焼」。コロナ禍のため昨年見送った開窯420年の記念式典を、10月27日に福智町図書館・歴史資料館「ふくちのち」で開催しました。記念式典には、日韓親善協会「中央会」の河村建夫会長や、日韓議員連盟の武田良太幹事長など、関係者100人が出席。主催者挨拶として黒土孝司町長は、上野焼振興への強い決意を述べた後、韓国との交流再開にも意欲をのぞかせました。主賓の尹徳敏駐日韓国大使も「デザインや色遣いが魅力的な上野焼は、韓国と日本の文化交流の象徴。今後も、両国の親睦を深めていきたい」と笑顔で挨拶。和やかなムードと大きな拍手に包まれた記念式典は、上野焼の価値と日韓の友好を深めた貴重な機会となりました。



1 会場を沸かせた韓国伝統打楽器演奏グループ「韓ソリ」の演奏
2 「古市古流」によるお点前で上野焼の奥ゆかしさを感じながら一服
3 式典終了後、尹大使と河村会長、武田代議士は、上野焼陶芸館と「渡窯」を視察
4 韓国の国技「テコンドー」の全日本ジュニア選手権大会で優秀な成績を収めた、金田義務前期の内村杏奈さんと内村翼さんが演武を披露

